

第8回 最上小国川流域環境保全協議会

平成23年6月7日 13:30～
最上広域交流センターゆめりあ会議室

第8回

最上小国川流域環境保全協議会

1. 第7回協議会における 指導事項と対応について

第7回 最上小国川流域環境保全協議会

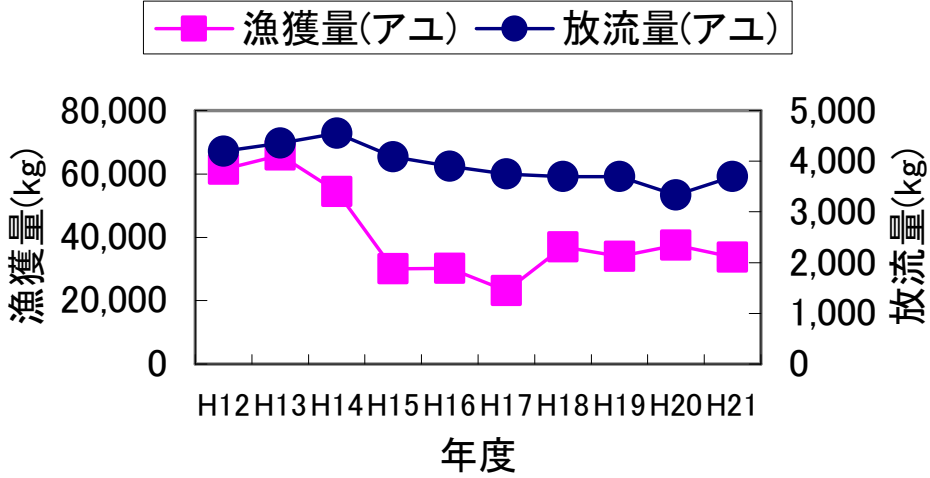
概 要

開催日時 平成22年10月5日(火) 13:30～15:30

場 所 最上総合支庁5F講堂

- 議 事
- 1) 第6回協議会における指導事項と対応について
 - 2) 平成22年度環境影響調査の中間報告について
 - 2-1) 猛禽類調査
 - 2-2) ヤマセミ調査
 - 2-3) ワタナベカレハ調査
 - 2-4) 植物重要種調査
 - 2-5) 付着藻類調査
 - 3) これまでの協議内容の中間とりまとめについて
 - 4) 今後の環境調査予定について

第7回協議会指導事項と対応

分類	指導内容	対応
平成22年度 環境影響調査 の中間報告に ついて (付着藻類への 影響検討)	①アユの漁獲量 ・平成21年は水温が低く、 はみ跡も少ないとのこと だが、漁獲も少なかった か。	平成21年度のアユの漁獲量は、前年度よりやや少なかった。  最上小国川の漁獲量及び放流量(アユ) 出典:「平成12年度～平成21年度 山形県の水産」(山形県)
	②アユの分布状況 ・アユが一番多いのはど こか。	長沢地区より下流といえる。 出典:平成12年度最上小国川ダム河川水辺環境(魚類・底生動物)業務委託報告書

第7回協議会指導事項と対応

分類	指導内容	対応
平成22年度 環境影響調査の 中間報告について (付着藻類への影 響検討)	③洪水の継続時間 ・洪水による付着藻類への影響を検討する場合、 洪水の継続時間にも留意する必要がある。	洪水による付着藻類への影 響検討は、洪水の継続時間 を考慮していく。
	④付着藻類影響検討フロー(案) ・流出パターンが変化する洪水について、流速・水 深の変化、土砂の変化、濁水に着目して検討する のは妥当である。ただし、検討に際しては難しい 面もあるので、細かい内容等についても今後提示 してほしい。	以下の4つの観点から、影響 検討を行っていく。 1)付着藻類の剥離・更新に 係る環境変化 2)付着基盤である河床材料 の変化 3)河床形状の変化 4)水質(濁り)の変化
平成22年度 「最上小国川流域 環境保全協議会 中間とりまとめ」に ついて	⑤「中間とりまとめ」について ・各調査項目の記載概要に、委員の方々から了 承を頂いた。 ・中間とりまとめの本文作成については、委員長 代理一任で了解を頂いた。	平成22年10月8日に中間とり まとめを報告頂いた。

中間とりまとめ報告状況



平成22年10月8日
原委員長代理より小松最上総合支庁長へ提出

平成22年10月 8日

最上総合支庁長

小松 喜巳男 殿

最上小国川流域環境保全協議会

委員長 中島 勇喜



最上小国川流域環境保全協議会中間とりまとめについて

最上小国川流域環境保全協議会でこれまで審議したことについて、
とりまとめたので報告する。